

福岡大学病院 本館



外観

福岡大学キャンパス内に立地する「福岡大学病院」は、地域に開かれた中核的医療センター。中央棟につながる本館を2024(令和6)年3月に増築。病室からは北側に福岡タワーや能古島、南側には油山が望める。



1F ホール

中央棟から本館へつながる場所に本館エントランスを配置。その顔として設置されたシンボルツリーは、時間帯によりツリーの照明の明るさと色が変わり、一日の時の移ろいを感じることができる。



1F 外来トイレ入口

離れた場所からわかるよう突き出しサインを設置。さらに、入口正面の壁面を男性が青、女性が赤で色付けし、入り間違えがないように工夫。バリアフリートイレの扉には、設備がわかるようピクトグラムを表示している。



1F 外来女性トイレ
大便器ブース

大便器ブースの間仕切り壁を天井まで立ち上げ、防犯対策を図るとともに個室感も高めている。大便器は床の清掃性がよく、連続洗浄可能な壁掛大便器セット・フラッシュタンク式を設置。



1F 外来男性トイレ
洗面コーナー

洗面コーナーには、衛生性に配慮し自動水栓を設置。また、近接した位置にクリーンドライ(ハンドドライヤー)を採用することで、ペーパータオル使用後のゴミ処理負担の削減や、環境保護につなげている。



1F 外来男性トイレ
小便器コーナー

シンプルなデザインと節水機能を両立した自動洗浄小便器を設置。清掃性にも優れた壁掛型を採用している。さらに、ユニバーサルデザイン配慮として、1ヶ所に小便器用手すりを取り付けている。



1F 外来
バリアフリートイレ

車いす使用者やオストメイトに配慮したバリアフリートイレには、コンパクトオストメイトバックを設置。さらに、お子様連れ配慮としてのベビーチェアや、パブリック用折りたたみシートを完備している。



1F 外来 洗面コーナー

設計コンセプトである「快適な環境」に沿って、外来待合の近くにも、トイレまで行かずに、いつでも手洗いできるよう洗面コーナーを設置。非接触で手洗いできる自動水栓を採用している。



2F 高度治療室

高度治療室は衛生性を高く保つ必要があるため、出入口付近に病院用洗面器を設置。深く大きく、底面や側面に指先が当たりにくい構造の大型ボウルは水はねも抑制。また、傾斜をつけて水滴付着を抑制し清掃性にも配慮。



4F 栄養部 準備室

栄養部準備室には、下処理室や調理室などに入室する前に手首までしっかりと手洗いができるよう、スタッフ用手洗器を採用し、衛生性に配慮。複数のスタッフが、混雑することなく利用できるように3台設置している。

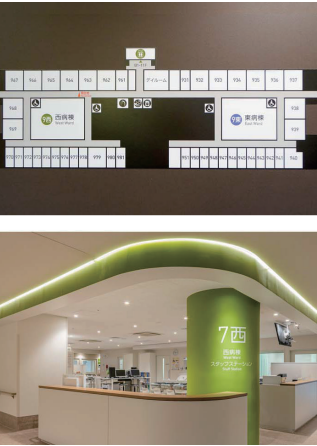


5F 総合周産期母子
医療センター

福岡県で初めて指定された総合周産期母子医療センター。新生児集中治療室、母体・胎児集中治療室、回復治療室が整備され、スタッフステーションと面会者用の洗面コーナーには、病院用洗面器が設置されている。



病棟 サイン



西病棟は緑、東病棟は青とカラーを分け、各病室やスタッフステーションの色を統一。さらにライン照明などでライトアップし、色と光で視認性を高めるウェイファインディングの手法でわかりやすいサインを追求した。

福岡大学病院 本館



8F 病棟 4床室トイレ

心地よい療養環境を提供するため、採光を確保した病室。4床室の廊下側に、左右勝手違いのトイレを2ヶ所配置し、病室内のほかの患者さんを気にせずにご利用できるよう配慮。トイレ内には、手洗器も完備している。



8F 陰圧個室

コロナ感染者などのマイクロ飛沫による感染病患者を隔離するための陰圧室。また空気感染対応の陰圧室も設置。通常は、一般病室として使用でき、必要な時に陰圧に切替可能。個室内で排せつやシャワー浴などが可能。



8F バリアフリースイレ

大便器は、コンパクトですっきりしたデザインのパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式、リモコンは押すたびに発電し、電源不要なエコリモコンを採用。さらに、座位が安定するように手すりを設けている。



8F スタッフ用トイレ

一般病棟のスタッフエリアにあるスタッフ用トイレは、同じ仕様で女性専用、男性専用トイレの間に、男女共用トイレを設置。将来的にスタッフの男女比が変わってもトイレサインを変更すればフレキシブルに運用も可能。



8F スタッフ用トイレ

スタッフ用の各トイレは、個室内で手洗いまで完結できるように手洗器備えた個室完結型を採用。洗浄ボタンは、衛生性に配慮して、非接触で洗浄できるセンサースイッチを採用している。



8F スタッフステーション

スタッフステーションには、こまめに手洗いできるよう3ヶ所にスタッフ用手洗器を設置。手洗い回数の多いスタッフの負担を軽減するため、通常よりあふれ面(850mm)が高く設定され、ラクな姿勢で手洗いできる。



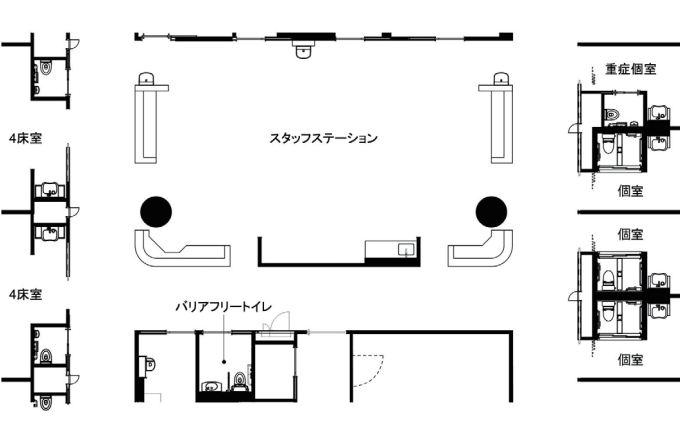
9F 尿流量測定装置・洗浄室

患者さんの負担になる「尿量」や「尿流量」の測定を、トイレで排尿するだけで実行できる尿流量測定装置を導入。尿はそのまま流せ、採尿カップが不要なためスタッフの負担も軽減。汚物流しも非接触で洗浄可能とした。



11F 介護浴室

車いすのまま入室できる介護浴室。同時に2人使用できるサイズで、車いすの回転や介助者のスペースをしっかりと取った大きさとなっている。手すりは、車いすからの立ち上がりしやすい位置に設置。



8F トイレ図面

水まわりの特長

建物の特徴

「福岡大学病院」は、地域の中核的医療センターであり、高度先進医療の指導的病院。2024(令和6)年3月、理念である「あたたかい医療」と基本コンセプト「Make Future Hospital」のもと、新本館を建設。中央棟から本館へつながる1Fエントランスには、本館の顔となるシンボルツリーを設置。5Fには、福岡県で初めて指定された総合周産期母子医療センターとして新生児集中治療室などを整備した。また、感染症患者の受け入れを含めた災害に強い病院として、2F高度治療室と8F病棟を陰圧モードのゾーン切替えてパンデミックモードにできるよう計画。免震装置・72時間フルバックアップの非常用発電機・ドクターヘリポートなどを設置し、大規模災害時に機能維持が可能。環境配慮にも先進的な取り組みを実行している。

水まわりの特長

感染源抑制対策として手指衛生や手洗いに配慮し、集中治療室やパンデミックモードで使用を想定される場所には病院用洗面器、スタッフステーションにはスタッフ用手洗い、一般外来の患者さんが使用する手洗器などは壁掛洗面器と設置場所によって洗面器の種類を変更し、使いやすき要所に配置されている。また、トイレや汚物流しの洗浄スイッチはセンサー式とし、非接触を徹底。病棟の4床室トイレは、ほかの患者さんを気にせずにご利用できるよう配慮して、廊下側に配置。手すりも左右勝手違いで設けており、身体状況に応じて選択が可能。スタッフ用トイレは、男女別トイレのほか、男女共用トイレも用意され、手洗器を備えた個室完結型としている。先進的な大学病院として、充実した水まわりが実現された。

建築概要

名称	福岡大学病院 本館
所在地	福岡県福岡市城南区七隈7-45-1
施主	学校法人福岡大学
設計	清水建設・東畑建築事務所共同企業体
施工	清水建設株式会社
竣工年月	2024年3月
敷地面積	147,266.96㎡
建築面積	6,267.40㎡
延床面積	51,328.70㎡
構造・階数	鉄骨造、一部RCST造、鉄筋コンクリート造・地下1階、地上12階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B系
壁掛大便器セット・フラッシュタンク式:UAXC3C系
ウォシュレットP:TCF589AEY
棚付二連紙巻器:YH701
自動洗浄小便器:UFS900系
台付自動水栓:TLE28SS系
壁掛洗面器:L270C、L250系
壁掛手洗器:LSE570系
コンパクトオストメイトバック:UAS82RDC2NW
パブリック用折りたたみシート:EWC500RS
L型手すり:T112CL10
パブリック用流し:UAS24B
スタッフ用手洗器:LS850R
病院用洗面器:MR104系
病院・高齢者施設向けユニット ESシリーズ:ESV1216U系